



笑註烈子
四

^ 13
786
4





尾字

異國
風俗

笑註烈子卷之四

惣變化國

業多小諸國の石皆大の字と上小く公も小く小の字と
くハヤハ大變と云ふと云ふもいと久きもふも云ふハハハ

小野山所が花乃色ハうろふろふおれたづふと海也

美人為黄土況粉代黒假也と杜子美々吟せり

詩も光陰人と流せよ其乃姿も勿小秋の暮也哉と

枯野の州とウロウ理も也烈子の姿ハ平ハ秋を旅

路のろふ小も月日を送り乱髪長髮秋毛惟率なり

小愛も秋が形也あれを令ふもウロウ路も小ハ秋を

岸も一城を乃方秋と云ふも變化の種と教多

計も一城を乃方秋と云ふも變化の種と教多

業多小諸國の石皆大の字と上小く公も小く小の字と



大なるもの

るやの虱茶言茶店小半り紫小蛇貝年中々乃合料
とありて蹄碎一蛇貝かき一五百乃や二万位かひのふて
はつるやとそ又雀とふるは中々の飼あり焼きとて
成人かきふるは海川小半り雀のたまきかき蛇のたま
りも疑を解ゆは地味ふとくは三層咽喉を
とありて羽根づちひく突ていもふ井の中を焼
と思ふ者ふ慢とかな大海を焼ゆはたと古人のり
さりふきこせ焼て二せのそりこを乃を焼て煮せ
ちるさ人ハ一欠四海皆同じ吾小疑ひせ免れど既り
信んハ後小半りて文字も並あつて一名と中身
といふ又夏鳥とも稱ぶこも入頗ゆ後人さる海川小

生むるほどの蛤は或百位ゆかんともさる一は雀の袋
ありと市判押たふる怪小思ふ人ありとれと予もま
のうー小思ひくを考す中明の附聲衛ふ五雜組といふ
書籍をわきせさるるふけ蛤とさるるさるるを並雀
があらふふふていふ多りの蛤の中ふは同じ並雀が蛤
とれりもれれどたれ部の種とさるるを考すそのり
とありと我が考考考考考考考考考考考考考考考考
年一考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
のふたば考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
凡ふ考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考
語と外考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考考

大正十一年四月

此の身、まゝして可もたの如く呼吸の門、入付はぬの如く
 翻る、速くも物、の如く、あつて、妙業の、徳と、名く、ゆゑ
 人も、あり。され、ゆゑ、さき、の、心、を、思、変化、之、又、聖、申、小、傑、平
 なる、ま、山、の、絶、頂、を、敷、千、丈、下、乃、台、港、へ、墜、つ、て、も、思、ひ、の、外
 け、う、も、あ、く、妙、木、の、根、小、葉、よ、い、の、名、か、あ、い、の、石、を、踏、つ、て
 遂、平、終、へ、と、り、出、く、返、て、も、身、を、保、つ、人、も、あ、り、ま、れ、と
 此、不、変化、を、あ、つ、つ、い、ふ、事、あ、ら、う、又、白、く、不、正、法、を、行、来
 する、時、あ、つ、二、言、不、正、なる、構、場、小、墜、つ、て、命、を、失、ふ、人、も、あ、り
 二、階、の、階、上、へ、墜、つ、て、命、死、する、人、も、あ、り、又、安、坐、一、乃、の
 事、し、遂、不、し、善、人、あ、り、ま、れ、ふ、此、不、変化、を、あ、つ、つ、正、く、と
 場、を、思、ふ、事、あ、ら、う、二、言、不、正、なる、構、場、小、墜、つ、て、命、死、する、人、も、あ、り、

ぞと、不、それ、天地、の、間、不、遠、也、の、言、と、よ、ま、あ、り、て、他
 の、間、不、充、属、く、人、民、の、不、及、を、一、切、力、物、を、文、死、し、て
 自由、自在、不、染、人、形、さ、ひ、の、言、と、よ、ま、あ、り、て、聖、人、で、も、賢、く
 者、で、も、目、不、見、る、の、り、か、あ、ら、う、又、智、者、で、も、仁、者、で、も、剛、勇、の
 名、の、で、も、あ、ん、で、も、如、く、も、け、又、死、さ、ら、ん、ゆ、ま、ひ、と、ま、り、変、て、る
 ら、あ、り、く、さ、し、も、仁、者、と、称、れ、小、松、の、内、府、を、置、置、も、也
 事、を、た、れ、た、が、字、と、名、け、し、て、後、聖、人、の、道、の、人、あ、れ、た、聖、徳、を、
 さ、ら、あ、く、剛、強、を、た、れ、し、て、後、聖、人、の、道、の、人、あ、れ、た、聖、徳、を、
 よ、ま、あ、ら、う、六、十、七、也、妙、業、を、命、を、須、忌、又、崎、廻、乃、山、形、不、成
 也、や、一、事、を、高、義、仲、ハ、何、ゆ、ゆ、た、く、む、を、法、し、き

糸を付之陣圓首の平居をうく頭を打揮て
 いふ。やと君の石富はもつる。莊子 蓀言
 不井の申の蛙とドおろく。露がいつく大海とを
 しきれこれをしてそれ古人乃教不天道ハ吾不樂
 又夫乃ハ生と死をみて死と生の海とといふ。一も
 一のえ。井天地の間不物とあり。らくる造物と不
 目不え。息をきき君の固不勅宣と云ふ。勅宣
 と聖人賢者と不世任及が書物と云ふ。觸書不
 地して四海万不の終ともそれ。終の又言こふの
 皆不も変化と云ふ。人の死ぬる。擇いんと云ふ
 善也と云ふ人ハも身安と云ふ。人悦て終ひあひき。舞

の帝のうく 鏡鏡と云う。一人あれとも。若くを看る
 け。望をふ。不法人。靡き。従ひ。舞。遂不。天子不。變化と又
 熟と。不。あ。人。ハ。天子。あれ。とも。夏。の。梁。王。殷。の。討。王。の。う
 こ。身。亡。び。法。人。を。死。が。死。終。不。夫。下。せ。夫。不。終。不。変。化。と
 不。也。も。解。解。書。不。従。不。と。背。く。ら。の。遠。ひ。光。若。ハ。崇
 変化。一。熟。ハ。不。変。化。と。云。ふ。聖。賢。人。の。書。ハ。い。ふ。不
 及。を。と。不。も。た。ら。思。と。云。ふ。不。淨。淨。中。成。何。州。紙
 不。も。年。ら。ら。妙。く。も。向。お。替。り。の。一。又。夫。下。の。政。と
 概。る。人。大。熟。及。た。せ。り。ひ。て。も。身。長。命。安。全。を。保。も。久
 終。不。終。不。法。氏。安。世。界。リ。リ。て。不。條。成。あ。ら。不。所
 代。あ。れ。や。と。論。ひ。難。せ。し。と。云。ふ。も。云。ふ。と。没。也。匹。夫



下後の天恩をたゞお放ておやいんせともいふ理は
白く切又まきと悪き人のまきも久しして子孫とも
お尋せしとまのハ淨理理おふも終神紙お見
たしもあるが変たしも耶かくの中ふハ一冊ごふハ
善人の天下の家を治してま身安全あふぞ子孫断
絶しつゝ治民礼を治むとふりとも作りておれお
せりも作りて無悪とふ色ハ平く作りて善と悪
との及理を能知りて作りて善と悪とふり又
善と悪とを河つゝ悪とせよとふまを作者おれお
西の事の人おてま一世信ふふま善とふりおてま
とも杆でも入れと善と悪と九の理おりては善の柳

心腸湯又ハ水取ま湯てもの油を採りて無病人は
病人ハ心取れ海あり人の死生存亡ハ天あり
我友善も君亦ハ天あり善も悪も天の命あり
ふ下を不初しとも善と悪とをきいて作りて
君子の心取れ善と悪とをきいて作りて善と悪と
乃の心取れ善と悪とをきいて作りて善と悪と
又心の疑ひ有り人生をて善と悪とも人の善
しごとき善し自善とふり善と悪とも人の善
乃の善と悪とをきいて作りて善と悪とをきいて
善と悪とも善と悪とも善と悪とも善と悪とも
善と悪とも善と悪とも善と悪とも善と悪とも
善と悪とも善と悪とも善と悪とも善と悪とも

今こゝに男と申すは――花人生をなす女とて父母の
懐小に育ちぬ乳房小せり腹よあやうらむらむら
空に寂しくもなれどもなれどもあはれもなき
わらわは交わりをもあはれもあはれもあはれも
とふり小懐に――たえ無歯が生啼ぶゆりおそふら
ら怒るのぶかたふもにせきくあふ変化しなれぬ
ぬがたけいぬぬらふも変化し――さそへばおふらと
今年とわらわは歯ハゆり落て新う歯せ生ドこれ
すはふあふらぬのぶらはきてあはれはふれと
内経素問云二七二八ハ天癸絶と云ふあり
これハ二十ト申すと云り坂ニ二十ト存ハハハハハハハ

髪も長く歯齧の内却兩の目背小皺ぐらむはうら
り変化の及りハ追ねぬまふ羊とおそても
書りたりハ明の王元美ハリつてふもいふ書
ふの――あはれはれちちあはれはれちちあはれ
て後ふと入後不親と云ふらとてあはれ地あはれ
たはらわらうらうらひのわらうらうら――中村孝子七
変化と云ふらと云ふらと云ふらと云ふらと云ふら
アまむともふらと云ふらと云ふらと云ふらと云ふら
明細小書載と云ふらと云ふらと云ふらと云ふら
山ハ軒ハふらと云ふらと云ふらと云ふらと云ふら
婦と云ふらと云ふらと云ふらと云ふらと云ふら

何れりておぼゆる事一も百万人の中か一人か入る婦
 の取取りと云ふ唐の則天皇后の事ふ七十五也此
 顔小鶏皮なりと云ふ人ものり又ハ周の穆王ハ
 是ハ一兼為童と云ふ少の怪也ハ何んもあれは
 下下す希多のあれは此のせなりて海は小
 川と云ふく結成志の人多くと多と多なりて
 小川と云ふくと云ふ事ふも些細の奇談珍話
 也談場で曾自たふふ自腹よふ人ハ海は小
 君死一也ハ物産少世と万物変化ハ何れと云
 云々云々一と云ふ事ハ多し中食光もその之なり也
 野遠ハ多し事ハ多し事ハ多し他の中ハ然んと云ふ

南方海路ハ何れを尋の甲也杖と云ふ彼
 小川の流小川セツツツと申する所也江ノ川ハ
 大酒公ハ評小曰古人の語ハ天地の变化ハ測り難
 じ一と云ふれハ今平人の变化也海は深し人
 幼ハ老年ハ小ハ大ハ乃変化也昔ハ似て今ハ
 也光陰矢の如き一と云ふハ今ハ幼弱なりと云
 とも妙者府の何ハ老年ハ小ハ今ハ大ハ事
 小ハ新キ職業ハ人ハ幼弱ハ今ハ大ハ事
 夜半ハ一と云ふ家ハ一の用ともあり人
 小信仰ヤタタハ何れの人と云ハ海ハ人ハ物
 の灵ハと云ふハ何れの人と云ハ海ハ人ハ物

かのめせし一もきし月日の事かいかもともには
 せきふぼふハ身が成り一えんどうりけりしむ
 日と流し遊ひたりしと後ふあるをゆめあやひ
 とふふふありての凡そ死せん大馬も方途
 あり万物の類とふふのふてはけじ隻の禹王ハ
 滅生あがして聖智聰才乃人あれども一寸乃
 目せおみして大業せ成就せ居ひ末世ふ身と
 乃氏とこれ徳の深大保厚なるせりやう仰き
 乃そまろるるをせと流や平人なるふ放てハ一分二厘の日
 をりみて悔念のるるせりしと曰トよふ生れ
 曰トよふ死せ人ふも造物ふ変化せりし又驚

小東ふ変化せりと種々種々の事別ゆきハツれりも
 人し成り人ことと事ふふ成りてはいふも人其お遠
 なるれども一軍ハ敵軍乃お遠のかり明しけニツ羽
 根者母一ふふ飛ふといえども鳳凰と雀とのそ翁
 何り四ツの足何りて曰トよふむきども麒麟も
 氣との異なるりあるはれども人の胸のどうとた
 人のいりきりけし洋ふ跡の屋きふもゆり人の度量
 此と洋ハツく不流屋れども。予がふふおはるか天
 及日次流く乾くうてなむふと何れもこれバ
 とも及ふきりせん人ハ多かりの何れもさる屋
 予ハ乃誠ハ一日の計ハ長ふ何り二年の計ハ

春ふりり一生計ハ勤ふりり一家の計ハ秋
 小つりりとあまふれんばつりりも出候しと勤む
 詩經小日夜不懈と云。又古歌ふふと云
 月日せむら海一 本の思はんほども
 恥しと何れも懈怠と戒りしを又花乃
 蛤とつりりと五雜組とて海より洋ありとい
 えども市目かあつりり洋をれハつりり
 夫と家不識と云ふれども我いんといふ古人の燕
 雀と云ふは燕雀と云ふ鳥と云ふはをふらふと云ふ
 小鳥と云ふは燕雀と云ふ鳥と云ふはをふらふと云ふ
 小鳥と云ふは燕雀と云ふ鳥と云ふはをふらふと云ふ

とつりりして燕雀の文章ふりりてきると雀の
 字と云ふと訓一燕の字と云ふと訓一燕ハ
 あまふりりつれども蛤とつりりつるハ燕雀と云ふ
 どもを海と云ふ鳥海川ふ入りて蛤とつりりつる
 唐の世ハ大物と称さし李善が説小雀
 ハ小鳥の惣名と云ふれども燕雀と云ふハ
 いんば些細なりと論じたるもつりりつる
 十と知り十と知りて百と云ふりつるハ幼學
 の蒙と云ふ種小ものと云ふはつりりつる

夙因 天注別子花之四

